

新年明けましておめでとうございます。精神科が新病棟に移転して数か月たちました。明るく綺麗な病棟で、患者さんや御家族の方々にも好評と聞いております。我々職員も新鮮な気持ちで日々の業務にあたる事が出来ています。今年は全国的に精神科診療の体制に変化があるかもしれません。厚生労働省は、精神科への入院期間を短縮するために、急性期の治療にあたる精神科医師の数を増やし、退院支援にあたる専門職の配置を強化することなどの取り組みを、早ければ今年から行うと発表しています。これまで以上に地域との密な連携が求められることにもなるでしょう。また当院は、県より認知症疾患医療の地域型センターとして指定を受けることになりました。高知県東部の認知症疾患における医療の拠点となり、地域の皆様によりお役に立てられることと思っております。時代に即した質の高い医療が提供できるように努力して参りますので、今年もよろしくお願い申し上げます

副院長 山内 祥豪



明けましておめでとうございます。昨年は、4月に芸陽病院と安芸病院が統合し、「あき総合病院」として開院、入院患者数も前年に比べて増加しはじめ、職員の皆様にはご苦労をおかけすることとなりましたが、病棟に活気が出てきたように思います。また、8月には精神科病棟が完成するなど、徐々に新病棟の完成に近づいてきているのが目に見える年となりました。今年は、いよいよ新病棟の完成が迫り、新病棟での運営方法、新病棟への移転計画など通常の業務をこなしながら進めて行くこととなります。新病棟は、幡多けんみん病院、県立中央病院の統合による高知医療センターに続く県立病院としては最後の新病棟建設であり、安芸地域の皆様の期待も大変大きいものと思っております。その期待に応えられるよう前田院長を先頭に安芸地域の人々の心とからだの健康を支えられる病棟づくりを目指してまいります。

事務部長 福井 尚仁



新年にあたって

平成25年の新しい年を迎えました。昨年4月に誕生した高知県立あき総合病院も、いよいよ新病院オープンに向けて1年あまりとなりました。既に完成している第一期工事に引き続き、病院北側では第二期工事が着々と進んでいます。同じ1年でも、新病院オープンまでのこの1年は今後の10年20年を大きく左右する時期になります。将来のこの病院の姿、役割を見据えた病院作りを進めていかないとはいけません。

あき総合病院の理念は「安芸地域とともに歩み、人々のこころと体の健康を支えていきます」です。私たちの病院は安芸地域9市町村のための病院であり、理念にあるシンプルで明確なメッセージに私たちの役割と方向性が語られています。新病院で整備する医療の内容も、常にこの原点に立って安芸地域の将来にわたる需要に対応して整備していく必要があります。

— 少子高齢化が進む安芸地域の医療需要に対応 —

安芸地域では少子高齢化が進んでいる現状があります。しかし、これは安芸地域だけの問題点ではなく高知県また日本全体の問題でもあります。安芸地域の医療需要予測をみると、高齢者の方に多い病気、特にがん、循環器疾患が今後も多いことが示されています。

がんに関してみると、安芸地域では肝臓がんの人口あたりの死亡率が他の地域より高く、肝臓がんの診療体制強化を急いで進める必要があります。現在ある64列マルチスライスCTも肝臓がん診断の大きな戦力になっていますが、新病院ではさらに最新の血管造影装置を整備してカテーテル治療に力をいれたいと考えています。また胃がん、大腸がん、乳がん、肺がんなど、他のがんについてもここでできる手術はここでいい、術後の抗がん剤治療も今以上に進めていきます。

高齢者の方で特に問題となるのが循環器疾患です。狭心症や心筋梗塞で救急外来においでになる方も多く、救急医療の課題にもなっています。新病院では心臓カテーテル装置を導入し、救急にも十分対応した診療体制の充実を図っていきたく考えています。

高齢者とともに重要なのが小児の医療です。少子高齢化の中では子供たちはまさに地域の宝です。生まれてくる赤ちゃんや子供さんを大事にする医療がこの地域の将来のためには必要です。この「産前産後医療」と「小児医療」は国の医療法での重点5事業のうちの一つであり、2次医療圏内での医療体制を整備していく必要があります。産科の病院が減少している高知県の現状を考えると、安芸地域で唯一お産ができる病院として、安心して子供を産んでいただけるように新病院では産科に力を入れて整備していきます。

このように、自治体病院である「あき総合病院」には、他の病院とは異なる急性期医療の役割が求められます。新しい時代の、この地域の需要に即した新しい病院を創り上げていかなければと思っています。そして後世の人に、良い病院を作ってくれたと言ってもらえるようなそんな病院になればと思っています。

病院長 前田 博教(まえだ ひろのり)



年男・年女のひと言。

巳年生まれの職員に今年の抱負等、語ってもらいました。

巳年生まれは、「お金に困りません」只、誘惑には弱いことが欠点。へび博士高田氏は「巳年生まれは、福を呼ぶ人『大好き』が多い人生は幸せだとへびは笑った」という。「大好き」が多い年にしたいと思えます。

看護部長 西田 初美



次の年女までまた一回り成長できるように(体以外・・・)、毎日の積み重ねを大事にしていきたいと思えます。精神科 土居 江里奈



10月から久しぶりの病棟勤務です。一人一人の患者様との出会いを大切に、新たな気持ちで頑張ります。4F 川竹 実佳



新病棟になり忙しい毎日ですが、体調を崩さないよう頑張ります。今年の抱負、●iiUを購入する!(買わせてください。) 1病棟 小笠原 正樹



年女という実感もなく、毎日が過ぎて早、1月も終わろうとしています。何と月日が過ぎるのが早い事でしょう。健康第一に仕事に家事にも励んでいきたいと思っています。3F 高橋 ゆかり



地震にも耐えられるマイホームを購入したい。あと、少しは体を動かす趣味を見つける。放射線科 吉岡 伸祐



プライベートも仕事も明るく楽しく笑顔で毎日過ごしていきたいと思えます。泌尿器科 松井 由貴



巳年生まれらしく、何事にも粘り強く取り組み、がんばっていこうと思えます。今年もよろしくお願い致します。総務課 上田 亜咲



健康一番、今年は職員検診でひっかからないよう注意します。1病棟 中井 貴則



私は昭和40年生まれの巳年の年女です。今年も健康一番で乗り切り、明るい笑顔とチャレンジ精神で頑張りたいと思えます。耳鼻咽喉科外来 吉村 幸恵



私がよく耳にする巳年のイメージは、しつこい・ねちっこい・根に持つなど暗いものが多いのですが、その暗いイメージを払拭できるよう明るくさわやかに頑張りたいです。5F 大石 克志



僕は、かなり城郭が好きです。今年は、全国にある城で現在も残る「現存12天守」を完全制覇できるように頑張ります。2病棟 近澤 秀将

